

令和5年度第3回ボランティア市民活動推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和5年12月6日(水) 19時00分から20時30分まで

2. 場 所 消防防災センター 3階大会議室

3. 出席者 (委員) 前田 眞委員、山川 和子委員、横内 薫委員
横内 博之委員、佐藤 温美委員、田野 奈々重委員
(事務局) 政策部長 高橋 哲也
地域振興課長 西岡 孝文
坂田 真治、宮本 純花、山本 大将、石井 彪
ボランティア市民活動センター所長 藤原 雅秀
越智 敦子

4. 傍聴者 なし

5. 会議内容

1. 開会

2. 議事

(1) 第4次ボランティア市民活動推進計画(案)について

(2) その他

- ・ビデオ視聴「やってみんの」
- ・意見交換
- ・事務局からの報告

3. 閉会

6. 会議録

発言者	発言内容
	<p>1. 開会</p>
課長	<p>只今よりボランティア市民活動推進協議会を開会する。</p>
	<p>2. 議事 (1) 第4次ボランティア市民活動推進計画（案）について</p>
会長	<p>説明を事務局より願います。</p>
事務局	<p>（素案から案への修正箇所について説明）</p>
会長	<p>修正箇所について意見はあるか。</p>
委員	<p>（意見なし）</p>
会長	<p>それでは、この計画案でまとめていくこととしたい。 前回は協議したが、改めて計画全体に対する意見はあるか。</p>
委員	<p>計画への記載という話ではないが、12ページの「ボランティア活動をするうえで困っていることはあるか」の問いにおいて、令和4年の回答で多いのは会員の高齢化・人材人手の不足となっている。各団体において、活躍する人の高齢化や減少が見受けられるので、そこを補えるように会員の確保やネットワークを広げる手伝いができればよいと思う。26ページの14に「団体・企業・個人の連携強化」とあるが、新規で若者に参入してもらえそうな取り組みができると、ボランティア団体も心強いのではないかと。</p>
会長	<p>若者の参入がなく、高齢化が進み団体の活動が維持できないというケースが多くみられる。例えば、25ページ方策②「ボランティア市民活動を行うためのきっかけづくり」の内容に、小中学生を含む若者に向けて積極的に展開していくという意味合いがすでに含まれていると思うが、文言を明確に記載するというやり方もあると思う。 ボラ7による広報活動を高校生より若い世代に啓発し一緒に活動する機会を作ったり、小中学校の総合的学習の時間に、ボラ7や団体と関わるような機会をつくるとよいのではないかと。</p>
委員	<p>先日、中之庄公民館で行われた地域のイベントに多くの若者が来ていた。「楽しさ」があるからあれだけの若者が集まるのだと思う。若者が集まる「楽しさ」がある企画を計画し、ボランティア活動に繋げるとよいのではないかと。</p>
委員	<p>そのイベントでは、どんな点が若者を集めたのか。</p>
委員	<p>屋台やキッチンカーに若者が集まっていた。</p>
委員	<p>楽しいのは、自分がそれを受ける側だからだと思う。やる側になってもらうのはなかなか難しい。何をするにしても楽しくないと続かないというのはあるが、楽しいだ</p>

けというのはどうだろうと思う。

会長　　そういったイベントの際に「気づき」の提供ができるとうい。西条市のあるイベントでは、ただ楽しむだけでなくごみについて考え、ごみをいかに減らせるか工夫する企画を盛り込み、そのようなイベントに助成金を出している。例として、最近は文化祭や学園祭にもキッチンカーが来ているが、その時にごみを減らすやり方で行う工夫をしてもらい、取り組みに対し何らかのサポートをするようなことができればよい。計画に記載している内容の中でできないのであれば文言を変えるなどし、運用の部分で取り組めるとよい。

委員　　イベントなどをする際にテーマを設定し、それに沿ってみんなができることを提案してもらうのもよいのではないか。

会長　　「ボランティア市民活動推進計画」に書いてあるから、みんなで話し合いながらこのテーマに沿ってやっていきましょう」と協議の場で提言できるようなものになればよいと思う。どのイベントでどんなテーマを設定できるかは、議論する必要がある。「計画によるとこうだからこうしていきましょう」ということや、SDGsの観点についても計画に基づいて市民に提案していけるとよい。ボランティア活動とSDGsの関係にも配慮しながらやっていくことが計画から読み取れるとよいのではないか。

委員　　楽しそうだからイベントに来るといのはよくあるが、参加をきっかけに運営側にまわりたい、ボランティアをしてみたい、という意識に変えていくのが大変だと思う。だからこそ、25ページにあるようなきっかけづくりが大事になると思う。

委員　　地元の婦人会は、赤十字奉仕団に所属しているが地域の方に認識されていない。地域のイベントに参加する際、赤十字のユニフォームにマークをつけて参加し「何のマークだろう」「何をしているんだろう」という疑問が他の人の活動のきっかけになれば、と啓発を始めている。若者もどこで活動すればいいかわからないと思うので、年齢に関わらず活動できる赤十字をアピールしたいと思っているが、若者を引き込むために何をしていくかが難しい。

会長　　見える化するのも一つの方法だがそれだけでなく、自分たちから積極的に活動の紹介をやっていくとよい。ボランティアはよいことだとわかっているが、活動への一歩を踏み出せないという現状をどうしていくかに関しては、25ページの7番に書いてあるような体験型の活動を広めていく、強化していく必要がある。どう強化していくかは現場のアイデアになると思う。

委員　　最近ではゴミ拾いも競技になっており、楽しみながらできるということで参加者も多いため、1つの方法かなと思う。

会長　　それも工夫だと思う。そういった工夫を現場でできるように応援できる計画になっていけばよい。

委員　　直接、興味を持ち参加したいと言ってもらえるのが理想の形だと思う。仕事を引退し、何かしたいけど何をしたらいいかわからない、という人が多いため、若者向けのアクションも必要だが、60代以降の方に向けて興味を持ってもらえる取り組みがで

きたらよいと思う。

会長

そこは、計画の内容をどう実行していくか、というアイデアの話になる。私の知り合いに60歳になったら老人クラブに入って老人クラブを改革したいと言っている人がいる。仕事や様々な活動での気づきを通して、年齢に関係なくそういう人が生まれるとよい。そのためには、活動をしながらか成功体験を経験してもらう必要がある。まずは活動を具体的に紹介できる機会、気づきを提供できる場を作り、活動に関心を持ってもらうことが必要である。例えば、コミュニティスクールでは地域と学校が運営協議会をつくり様々なことをする動きがあり、そういったところに投げかけて、気づきや取り組みを広げていくのもよい。また、活動したい人を受け入れる場も作らないといけない。活動したい気持ちをたきつけるだけでは消えてしまうので、細々とでも維持できるようセンターがサポートすることも大事である。

山川委員が所属しているいりこ倶楽部では、高校生などが参加するような機会はあるか。

委員

参加してほしいが日程を合わせるのが難しく、学校の許可がおりないこともある。海ごみゼロの活動は土日なので参加してくれるが、その際にはいりこ倶楽部の活動紹介も行っており、いつでも受け入れる体制はできている。

委員

センターの尽力もあり、高校生ボランティアは募集体制が整っていると思う。しかし高校生ボランティアはどうしても一時的なもので、なかなか団体の活動を受け継いでくれない。一方、仕事を引退した方などで、研修会や講座に来られる方はどのくらいいるのか。

事務局

人数的には多くないが、市報、ボラ7通信等を見て興味を持って来てくださる一般の方はいる。

委員

そういう方にボランティア紹介をしているのか。

委員

個人で相談に来られる方には、やりたいことやできることを確認し、適した団体を紹介して活動を促している。また、退職して時間ができた、とセンターに来られる方にもボランティア団体を紹介したり、団体行動が苦手な方には個人でできるボランティア活動やボランティアイベントを紹介し、登録を勧めている。

先ほどおっしゃられた中之庄公民館のイベントでは、各高校・中学校にボランティア依頼を出し、多くの学生が参加してくれた。最近では企画段階から高校生ボランティアを募るイベントが増え、以前に比べると生徒の力が育ってきたと思うが、皆さまに感じてもらえていない現状を考えるとまだまだなのかな、と思う。

委員

初心者向け研修会等に60代向けのものがあってもいいと思う。

事務局

毎年、傾聴ボランティア養成講座を開催しているが、今年は朗読ボランティア団体から高齢化で後継ぎがないという相談を受け、朗読ボランティア養成講座も開催した。そういったボランティアをされたことがない方も参加されており、今後も前向きに検討したい。

会長	<p>高校生ボランティアについては、存在が当たり前になりつつある。そういった状況が見える化されるとよい。</p> <p>また、そのような活動の基盤が計画の内容から読み取れると思うので、活動のアイデアも含めて展開していけるとよいと思う。</p> <p>そのほか意見がなければ、この内容で策定を進めてよいか。</p>
委員	(意見なし)
会長	次に、今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いしたい。
事務局	(計画の策定スケジュールについて事務局より説明)
会長	<p>(2) その他-ビデオ視聴</p> <p>議題2、その他について事務局より願います。</p>
事務局	<p>「やってみんの」は四国中央テレビと共同で作成している番組だが、最近ではコロナの影響でなかなか撮影ができていない。今後、四国中央テレビと相談しながらやってみんののよりよい運用について考えていく。なお、現在30本ほど収録していただき、そのうちの一つを視聴いただき、ご意見を頂戴したい。</p> <p>(ボランティアフェスタ2019取材した回のやってみんのを視聴)</p>
会長	意見・感想はあるか。
委員	ボランティアフェスタはどこが主催、企画運営をしているのか。
事務局	ボランティア市民活動センターである。
委員	ボランティア団体が主体となり企画・運営するイベントはないのか。
事務局	ボランティア団体が企画運営するイベントは開催されているが、センターが直接関わることはない。学生ボランティアの依頼や相談があれば協力している。
委員	<p>様々なボランティア団体が自主的に集まり、ボランティア活動をどう広めていくか話し合ったり、実行委員会のようなかたちでアイデアを持ち寄り企画する機会があれば、別の見方ができるのではないか。</p> <p>お互いの悩みを共有し共通認識ができたり、裾野を広げ、ボランティア活動をもっと知ってもらうイベントが開催できると思う。</p>
会長	それぞれの団体が悩みを持ち寄って話し合えるような場が定期的に設けられ交流ができればよい。センターでそういう動きはあるか。
事務局	交流会は毎年実施している。様々な団体が20グループ程度に分かれて交流や意見交換をしている。近年はコロナでなかなか集まっていなかったが、今後は集まれるようになると思う。以前、ボランティア団体が集まって意見交換や悩み相談ができる場を設ける計画があったが、コロナにより断ち切れてしまった経緯はある。

会長	<p>そういった機会が復活するとよい。それとは別に、ボランティア活動者が何か共通の取組みによりイベントを作り上げることができる機会があれば、交流をより深められると思う。共創型のやり方を考えられるとよいと思うので、参考にしてもらいたい。</p> <p>また、先ほどのビデオについて、活動の紹介はあったが高校生が実際に見てどう感じたのかという意見があまりなかった。そのような意見があると、ボランティア活動の価値が同世代の人たちにも伝わるのではないかと思う。</p>
委員	<p>「やってみんの」で、団体の活動紹介を行うのはとてもよいと思うので、もっと本数を増やしてもらいたい。また Youtube に掲載したら視聴数が増えると思うので、ぜひともお願いしたい。</p>
委員	<p>先日、「もりあげ隊」の集会があったが、四国中央テレビの取材がなかった。そういう集まりに取材は来ないのか。</p>
委員	<p>「もりあげ隊」は、ボランティア団体同士の交流や活動の広報・PR を目的としたまちづくり団体で、先日、各団体の活動発表を行った。ユネスコ協会の関係で出席されていた四国中央テレビの方に集会の様子を撮影したデータがあれば編集して放送していただけると伺い、データをすでに送っている。</p>
委員	<p>四国中央テレビさんには、もっと取材してもらえようお願いしたい。</p>
会長	<p>人手の問題もあると思うが、情報を伝え、自分たちで撮影した映像を積極的に提供できればもっと広がると思う。市民のための広報媒体なので、四国中央テレビをぜひ活用してもらいたい。様々な広報をいろいろな手段で実施すると良いと思うし、Youtube の利用により広がりが増えると思うので取り組んでもらいたい。</p>
会長	<p>(2) その他-意見交換</p> <p>計画の議論以外に、委員のみなさんが活動をするなかで意見や要望があればお聞きしたい。</p>
委員	<p>ボランティアポイントがもらえる制度を実施し、活動が活発になっている市町がある。四国中央市でも、そういった制度を導入できないか。</p>
事務局	<p>制度のことは認識しており、様々な側面からの検討を行っている状況である。</p> <p>健康ポイントなどの制度に関して動きがあるので、ボランティアポイントについても模索し、対応できるか検討していきたい。</p>
会長	<p>色々な自治体で取り組み始めており、愛媛県の施設利用料として使える地域通貨ポイント制度もある。現在は県の職員が利用しているようだが、ボランティアを広める手法としては有効だと思う。原資をどう負担するか、ポイントをどう計算するのか、など問題もあるが、スマートフォンを利用する手法など、今後検討してもらいたい。</p> <p>また、未来の担い手確保に向け、若者等に情報発信しきちんと届ける機会を設ける必要があると感じる。例えば、学園祭は主に学生が活動のアピールをする場であるが、コミュニティスクール等で地域の人の活動をアピールできる機会をつくるようなことが検討できるとよい。</p>

委員	<p>地元の小学校からボランティア案内メールがきて活動に参加していると、小学生との親密な関係性ができる。そういった関係性が、子どもたちのボランティア活動につながるのではないかと思う。</p>
会長	<p>その他、何かご意見があれば事務局に伝えていただき、今後も一緒に取り組んでいけたらいいと思う。</p>
会長	<p>(2) その他-事務局からの報告 最後に事務局から報告をお願いする。</p>
事務局	<p>今年度の協議会に関しては、今回が最後の予定である。計画の軽微な修正等に関しては、会長に確認いただき委員の皆様にお知らせすることとしたい。来年度の協議会は、上半期と下半期2回の開催を予定している。時期が近づいたらご案内するのでご意見を賜りたい。</p> <p>またボランティア市民活動センターにおいては、12月17日(日)10:00から市民交流棟にてボラ7が企画したすまいるフェスティバルを開催する。また来年3月16日(土)10:00から防災センター3階大ホールにおいて災害ボランティア研修会と交流会を併せて開催する。講師には一般社団法人 FEEL Do の桑原 英文 氏を迎え、災害についての講演やフィールドゲームを行う予定なので、ぜひ参加していただきたい。</p>
会長	<p>桑原さんは、災害復旧・復興の経験を積まれ実践的な話をされる方なのでいい話が聞けると思う。どちらの催しにもぜひ参加してほしい。</p>
会長	<p>議事は以上で終了したので、進行を事務局へお願いしたい。</p>
課長	<p>令和5年度第3回ボランティア市民活動推進協議会を閉会する。</p>